

インフォームドコンセント

HSCC CERO

当施設は、ボルダリングとスポーツクライミングの施設です。

ボルダリングとは、ロープを使わずに飛び降りられる範囲（通常 1～5 m）で行われるクライミングです。

当施設は高さ約 3.5mの壁を設置し着地するために厚さ約 20 cmのマットを敷き詰めておりますが、これは着地する際に衝撃を和らげるためのものであり、全ての墜落に対応しているわけではありません。着地の際は必ず下に人がいないかを確認し足から安全な態勢で着地してください。またルート中の接触にも十分注意し利用者同士が譲り合って事故の無いように努めてください。

理解した

スポーツクライミングとは、ロープを使用し、ビレイヤーに確保してもらいながら行うクライミングです。

当施設では、高さ約 6mの壁を設置しております。ロープで確保されていますが、すべての危険は排除できません、クライマー、ビレイヤー共に、お互いの動作に注意してください。

理解した

クライミングの危険性について

クライミングには「死」をも含む危険性が付きまといます。逆に危険があるからこそクライミングが成り立っているともいえます。クライミングをするものは危険に対する自己意識をもち自分で自分を危険に対してコントロールしなければなりません。クライマーは常に危険を意識し他人任せではなく自分の身は自分で守るということを前提にクライミングしなければなりません。クライミングでは子供だからといってクライミングにおける危険を無くすことは出来ません。子供であろうが大人であろうが初心者であろうがエキスパートであろうが誰にでも危険が等しくあるということです。クライミングする前にこのことを十分理解しておかなければなりません。

理解した

この施設を利用することは本人及び保護者の自己決定にもとづく自主的なものである。

はい

この施設における全ての事故について保険が準備されていないのを承知している。

はい

施設内での危険性（可能性 高 低）

事故として考えられる可能性の高いものとして下記について理解しておいてください。事故の程度としては一概にいえませんが全ての事象について死亡事故に繋がる可能性を含んでいることを理解しておいてください。

- ・ 墜落時及び飛び降りた時における着地の失敗。（高）
- ・ 墜落時及び飛び降りた時に下にいる人との接触。（高）
- ・ ルート上（壁の中）での他者との接触。（高）
- ・ ホールドの回転・破損による事故。（中）
- ・ 壁の破損による事故。（低）
- ・ 火災、地震、水害など建物の崩壊による事故。（低）
- ・ クライミング中の身体の酷使による事故及び障害。（高）
- ・ その他社会生活でも予想される事象。

事故参考例

- ・ 墜落時に着地に失敗し足首を骨折。
- ・ 飛び降り時に下の人と接触。飛び降りた本人は打撲。下の方は腰椎骨折で下半身不随。
- ・ 壁の中で他者と接触。お互い墜落して足首捻挫とひざの靭帯損傷。
- ・ 不意にホールドが破損。破損したホールドの破片で指を 2 針縫う怪我と着地の状態が悪く肩関節脱臼。
- ・ 15 cm 四方の壁がホールドとともに破損。墜落したが幸い無傷に終わった。
- ・ クライミングのしすぎで指関節に炎症を起こした。（スポーツ障害）

など等・・・

上記の可能性について理解した 署名